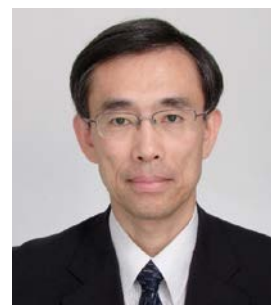


1. 研究課題名：

原発事故により放出された大気中微粒子等のばく露評価とリスク評価のための学際研究

2. 研究代表者氏名及び所属：

森口祐一（東京大学大学院工学系研究科）



3. 研究実施期間：平成 27～29 年度

4. 研究の趣旨・概要

福島第一原子力発電所の事故によって大量の放射性物質が環境中に放出されたが、事故後初期の実測データの不足から初期被ばく線量の推計結果は不確実性が大きく、その改善が懸案課題とされている。

本研究は、大気中での物質の移流・拡散現象の解明、微粒子等に含まれる成分の分析、放射性物質の性状を考慮した線量評価など、異なる専門分野の研究者の学際的な連携によって、最新の知見を統合した線量評価手法を構築し、事故後初期に放出された物質の吸入に伴う健康リスク評価の高度化を目的とする。

本課題の実施による被ばく評価の改善は、放射性物質健康管理の分野において、最善の科学的知見に立脚した環境政策の推進に貢献する。

5. 研究項目及び実施体制

(1) 大気放出からばく露評価・リスク評価に至る総合解析手法の設計

(国立大学法人 東京大学 大学院工学系研究科)

(2) SPM 計のろ紙分析による放射性核種比の再現

(公立大学法人 首都大学東京)

(3) 初期被ばく評価の精緻化のための大気中放射性核種の時空間分布の再現

(国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構)

(4) 微粒子性状および短寿命核種の寄与を考慮した線量評価の精緻化

(東京医療保健大学*)

(5) 大気拡散・ばく露評価統合モデルの構築

(国立研究開発法人 国立環境研究所)

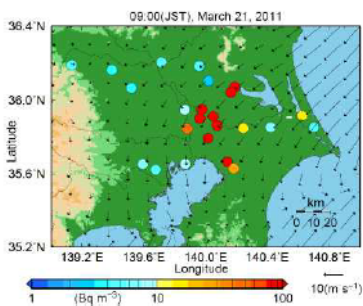
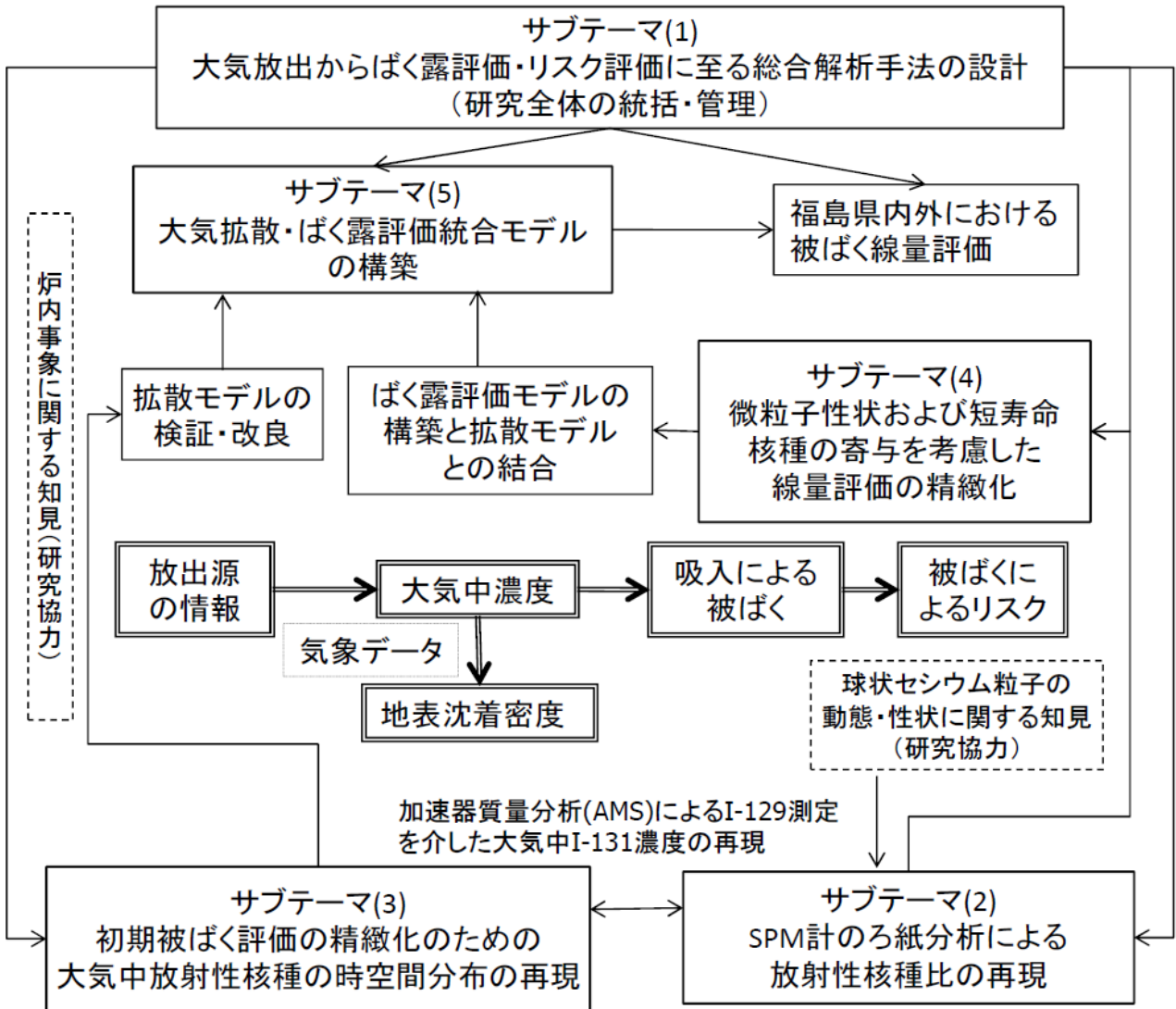
* 採択時点の担当機関。人事異動に伴い実施体制を変更して平成 28 年度から実施予定。

6. 研究のイメージ

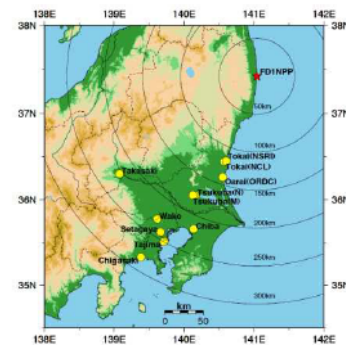
様式F

5-1501

原発事故により放出された大気中微粒子等のばく露評価とリスク評価のための学際研究



本課題に参画する研究者らによる先行研究における大気中Cs-137の空間分布の再現例



諸機関による放射性核種の測定地点(推計・比較に利用)



測定に用いるSPM計のテープ状ろ紙